

平成28年度 施策マネジメントシート【27年度実績評価】

作成：28年6月3日

施策番号 4-2-3	施 策 名	国際・地域間交流の推進	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり	
			政策名	交流を通じた魅力ある地域文化の形成	
	主 管 課	企画財政課	課長名	佐野寿行	内 線 220
	施策関係課	農林課・社会教育課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果		
友好都市との交流を通して得られる情報をまちづくりに活かします。			町民 交流都市の住民	友好都市との交流に参加し、情報を得ることによって、他地域の歴史・文化、まちづくりの手法などを学ぶことができる			交流を通じた情報の連携によるまちづくりをすすめる		
成果指標	説明	単位	23年度(策定期)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)	
① 他都市(トレーシー・広尾・揖斐川)との友好・交流提携の事実を知っている町民の割合	住民意識調査	%	トレーシー 61.4 広尾町 44.1 揖斐川町46.9	トレーシー 69.2 広尾町 48.2 揖斐川町45.1	トレーシー 71.1 広尾町 44.0 揖斐川町45.4	トレーシー 65.0 広尾町 50.0 揖斐川町50.0	トレーシー 65.0 広尾町 50.0 揖斐川町50.0	トレーシー 65.0 広尾町 50.0 揖斐川町50.0	
② 行政が行っている交流事業・行事の数	企画財政課調べ	回/年	16	16	15	16	16	16	
③									
成果指標 設定の考え方	①トレーシー市については前期実施計画と同様に65%を、揖斐川町と広尾町は後期実施計画策定期に約45%であったことから50%を目標とする。 ②後期計画策定期の交流行事を維持する目標とし16回とする。								

2. 施策の事業費

	26年度決算	27年度決算
施策事業費（千円）	15,830	30,256
人工数(業務量)	1.0098	1.5587

3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察			
①平成27年度の成果評価 (前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①のうち広尾町と揖斐川町の認知度は横ばいの状況であるが、トレーシー市の認知度は、平成26年度に25周年記念式典を行い、平成27年5月23日に民間組織である「芽室町・トレーシー市交流協会」が設立されるなどの影響から認知度は上昇したものと思われる。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠 (理由)	トレーシー市の認知度は目標値をクリアしており、民間団体による交流も期待できる。また、広尾町と揖斐川については、平成28年度に周年を迎えることから、周年事業などを周知することで、目標は可能と考える。
(2)施策の成果評価に対する平成27年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	国際交流推進事業 中学生国際交流事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	①トレーシー市は、友好提携25周年記念式典を契機に町民団体である「芽室町・トレーシー市交流協会」が平成27年5月23日に設立され、「トレーシー姉妹都市協会」との民間レベルでの交流拡大が期待できる。 ②「ふるさと交流センター維持管理事業」は、芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の産業雇用プロジェクトに位置付け、農業実習生と山村留学生の生活環境向上のため、屋根・外壁の改修を行った。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した
			○			
※該当に○印						

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	『施策を取り巻く状況』 社会・経済状況の変化により、町として多額な費用をかけて交流という状況にはない。 『今後の予測』 認知度向上に向けて、交流内容などを周知手法の検討検討が必要。 地域間交流は人→物→金と発展させるのが一般的であることから、3地域ともに交流の熟度を高めていく必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	特になし。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

課題① 地域間交流の深化

国際交流・地域間交流とともに、人材交流・物産交流・経済交流などに結び付けていくことが大きな目標であるが、各交流とも事業が定例化しており、周年事業などをきっかけに交流内容を発展させる必要がある。

課題② 地方創生(産業雇用プロジェクト)の推進

ふるさと交流センターにおける山村留学生の受け入れは安定しているが、農業実習生の受け入れ実績がここ数年なく、農業従事者の育成プログラムの構築による施設機能の検討が必要である。

6. 総合計画推進委員会(府内評価)

評価	民間団体等の協力を得ながら友好・交流提携の継続により、町民に広く浸透してきており、施策として前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	周年行事を契機に人材交流、物産交流、経済交流を進めてほしい。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	国際交流の認知度も上昇しているため、府内評価と同じく前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	●広尾との物産交流なども検討してほしい。 ●農業実習生の受け入れ態勢など検討してほしい。 ●交流事業の参加負担を整理してほしい。 ●商品開発を検討してみてはどうか。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					